

英語科 学習指導案

日 時	平成30年11月8日(木) 5校時
学 級	3年2組(男子16名 女子19名 計35名)
場 所	3年2組教室
授業者	佐野 亜紀子
ALT	コリン プタク

1 単元名 PROGRAM7 What Is the Most Important Thing to You? (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)

2 本単元について

(1) 教材観

山本敏晴さんの途上国におけるボランティア活動について学ぶ。彼は世界中で活動して途上国を支え、また、途上国のために働く人材育成に取り組んでいる。彼の「お絵描きイベント」を通して、途上国の状況と子ども達の願いを知ることができる。本当の国際協力とは何か、自分たちにできることは何かを考えさせたい。

言語材料としては主格の関係代名詞 **who, which, that** を扱う。既習の後置修飾と比較しながら、文の構造や意味・働きを理解させたい。言語活動を十分に取り入れて定着を図り、表現の幅を広げさせたい。

(2) 生徒観

本校の英語科で目指す生徒像は以下のとおりである。

①自分のことや身近なことを発信することができる生徒

②他との関わり合いを持ちながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒

生徒は全体的に真面目で、与えられた課題や作業に真剣に取り組んでいる。積極的に挙手、発言する生徒も多く、ペアワークやグループワークも協力して行う。一学期を通して、プログラムのセクション毎に自分のことについての文を書いたり、ペアで対話を書いたりし、発表する機会を設けてきた。徐々に表現の楽しさを見いだしているように見えるが、中には、基本的な語彙や文法事項に関する理解が十分とは言えない生徒も見られる。そのため、正しい単語や語順で文を作ることができなかったり、苦手意識をもっていて積極的に取り組めなかったりする生徒もいる。関係代名詞に関しては前置詞句、不定詞、後置修飾と学習を進めてきたが、後置修飾用法が定着していない生徒もいるため、口答練習やワークなどでの問題練習を多く行い定着を目指したい。また、国際協力についての意識も個人によって差があるので、この単元の学習を通して興味・関心を引き出したい。間違いを許容できる雰囲気を作りながら、発信力育成のために人に伝えたい内容をもたせ、語彙力の強化を図る工夫をするなどして目指す生徒像に迫っていきたいと考えている。

3 単元の指導目標および評価基準

(1) 指導目標

- ア 主格の関係代名詞を用いて、どのような人やものか説明する。
- イ 発表の際に、間違えることを恐れず話す。
- ウ 山本敏晴さんの活動のねらいを理解する。
- エ 主格の関係代名詞 **who, which, that** を用いた文の構造を理解する。

(2) 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
・発表の際に、間違えることを恐れず話している。	・主格の関係代名詞を用いて、どのような人やものか説明する。	・山本敏晴さんの活動のねらいを理解する。	・主格の関係代名詞 who, which, that を用いた文の構造について理解している。

4 単元の指導計画

時間	○ねらい ・学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。		
	○主格の関係代名詞 who を用いた文の構造を理解する。 ・主格の関係代名詞 who を用いた文の構造を知る。 ・ who を用いた文を使えるように練習する。	言知①	後日ペーパーテスト
2	○主格の関係代名詞 who を用いた文の内容を理解する。 ・教科書本文を通して who の使い方を理解する。 ・「自分がなりたい人（職業）」について説明する。	理解①	ノート
3 本時	○主格の関係代名詞を用いて、どのようなものか説明する。 ・関係代名詞 which を用いた文の構造を知る。 ・ which を用いた文を使えるように練習する。 ・クイズを作成し、発表する。	関心① 表現①	活動の観察 ワークシート、 発表
4	○主格の関係代名詞 which を用いた文の内容を理解する。 ・「(自分が持っている) もの」について説明する。 ・教科書本文を通して which の使い方を理解する。	理解①	
5	○主格の関係代名詞 that を用いた文の構造を理解する。 ・主格の関係代名詞 that を用いた文の構造を知る。 ・ that を用いた文を使えるように練習する。	言知①	後日ペーパーテスト
6	○主格の関係代名詞 that を用いた文の内容を理解する。 ・「(自分の知っている) 人やもの」について説明する。 ・教科書本文を通して、 that の使い方を理解する。	理解①	ノート

後日	〈ペーパーテスト〉 ◇主格の関係代名詞 who, which, that を用いた文の構造 についての理解をみる問題	言知①	ペーパーテスト
----	---	-----	---------

5 本時の指導

(1) 本時の目標

ア 主格の関係代名詞を用いて、どのようなものか説明する。

(2) 指導の構想

「思考力・判断力・表現力」を育てるための言語活動のポイント

資料と教科書から事実を理解し、みんなに伝達する。

(3) 本時の評価基準

観点	B おおむね満足できる	努力を要すると判断された生徒への手立て
関心・意欲・態度	発表の際に間違えることを恐れず話している。	自信をもって話せるように支援する。
表現	主格の関係代名詞を用いて、どのようなものか説明することができる。	英文の構造を説明し、文を作ることができるように助言する。

(4) 本時の展開

学習過程	学習内容および学習活動	指導上の留意点	◇教具/◆評価
導入 見通し 10分	1 あいさつ 2 Warm-up 3 Basic Dialog の内容理解 4 学習課題の設定	・復習 ・場面と新出文法事項の確認	◇ワークシート
Goal: Let's make quizzes and answer correctly!			
展開 課題 解決 30分	5 学習課題の追求 (1) New Words (2) Listen (3) Speak 6 学習課題の解決 (1) やり方の確認をする。 (2) WORD BOX を使い、練習をする。 (3) グループで作成する。 言語活動：資料と教科書から事実を理解し、みんなに伝達する。 (4) クイズ発表→解答	・CDの後について発音する。 ・対話を聞き、内容に合うものを選ぶ。 ・口頭練習する。 ・教師が示すクイズの例に答え、説明を聞く。 ・大きな声で発表する。 ・ヒントを発表し終わったところで、答えが分かった生徒は挙手して発言する。その後、解答を確認する。	◇FC ◇ワークシート 【関心・意欲・態度】 ◆発表の際に、間違うことを恐れず話しているか。 【表現】 ◆主格の関係代名詞を用いて、どのようなものが説明することができるか。
終末 振り返り 10分	7 まとめ	・学習内容の確認を行う。 ・本時の振り返りを行う。	◇振り返りシート